

## 植物防疫基礎講座

# アブラムシ類の見分け方(3)

## 野菜のアブラムシ類

宇都宮大学農学部応用昆虫学研究室 たか はし しげる  
高 橋 滋

## はじめに

近年、外国産の野菜類が小売店で若干値の高い同じ種類の国産のものと並んで売られている。しかし、国産と表示されているが、歴史的には、日本の土着種から山菜として利用され、さらに畑などに栽培されるようになった純国産の野菜はミツバ、ウド、ハス、フキ、ワサビなどに限られており、ほとんどの野菜は諸外国から導入され、栽培されるようになった。このことは、日本に分布している野菜の害虫となっているアブラムシを調べるとき、諸外国の情報も必要としている。

このことから、野菜類を加害するアブラムシは、同時に野菜類とともに侵入した種が多く、日本でも、ある野菜の世界中の栽培地帯で共通種となっている種が多いのが特徴である。さらに、広食性のワタアブラムシやモモアカアブラムシなどでは殺虫剤抵抗性系統が出現し、難防除害虫となり、問題ともなっている。

今回、作成が面倒で細かい作業が必要なプレパラート作成をしないで、できるだけ生きている無翅胎生雌虫成虫の肉眼や低倍率の拡大鏡などによる外部形態観察・生体時の体色・寄生部位・寄生状況などで同定できるように、また比較級的な表現を少なくして、判定に紛れが少なく簡便な検索表を作成しようとした。しかし、近縁種や細部を検討しないと同定できない種などではプレパラートの顕微鏡観察による相違点も検索表に入れた。

また、各種野菜類のアブラムシの検索表の後に、新しく出てきた種に通し番号をつけ、和名と学名を入れた。

## I 野菜類を加害するアブラムシ類の検索表

## 1 果菜類

(1) ウリ類 (キュウリ・スイカ・メロン・カボチャなど)

田中 (1976) によれば、ウリ類には、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ニワトコヒゲナガアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、オカボノアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシが寄生するとしている

(以後、同じ種が本文中に2回以上出てきたとき、和名のアブラムシは省略するのを原則とするが検索表では省略しない)。しかし、オカボノアカはイネ科、ニセダイコンはアブラナ科植物を寄主としている少食性のアブラムシで、時々、1~2匹がウリ類で発見されても、増殖はしないと考えられるので検索表から除外した。

1) 新葉を表から裏へ巻き縮葉してその中に寄生する。生体時の体色は濃緑色で、さらに濃色の個体は黒色に見える。腹部体側突起が第1, 7腹節には必ず存在する。……………ワタアブラムシ  
 — 葉を巻くことはない。生体時の体色は緑色か濁赤色である。腹部体側突起がない。……………2)

2) 角状管は準円柱状である。……………ジャガイモヒゲナガアブラムシ  
 — 角状管はわずかに膨れる。……………3)

3) 脚の脛節は黒色である。……………ニワトコヒゲナガアブラムシ  
 — 脚の脛節は基部と先端部が黒色でそれ以外は明色である。……………モモアカアブラムシ

- ① ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER  
 ② ジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani* (KALTENBACH)  
 ③ ニワトコヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum magnoliae* (ESSIG and KUWANA)  
 ④ モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER)

## (2) イチゴ

田中 (1976) などによれば、イチゴを加害するアブラムシとしてはイチゴクギケアブラムシ、イチゴケナガアブラムシ、イチゴネアブラムシ、バラミドリアブラムシ、チュウリップヒゲナガアブラムシ、ジャガイモヒゲナガ、ワタ、モモアカ、ムギヒゲナガアブラムシが記録されている。しかし、この中でムギヒゲナガはイネ科植物を寄主とするアブラムシでイチゴでは増殖しないと考え、検索表から除外した。

- 1) 生体時の体色は白色から淡黄色である。体の刺毛の先端部は膨れ、釘状である。……………2)  
 — 生体時の体色は緑色、濃緑色、褐色、濁赤色である。体の刺毛は先端部が尖る。……………3)  
 2) 腹部背面中央部に短い釘状の刺毛が縦に2列並ぶ。

Identification of Aphids (3) Aphids on Vegetables. By Shigeru TAKAHASHI

(キーワード: アブラムシ, 無翅虫, 検索表, 野菜類)